

まだまだこれからです。

監事 田川 淳一 (50期)



LIBRAへの退任のご挨拶を、とのご指示を受けて本稿を作成しているのは1月半ばですが、監事の中心的な仕事である監事意見書の完成のための作業は3月末の決算が出てからなので、退任のご挨拶といっても、いまいちピンときません。

これまで、理事者会に毎回参加し、弁護士会の意思決定の過程を見させていただくとともに、財務委員会や財務改善PT等の会議に参加することで、当会の財務関係の課題とそれへの取組みのあり方も見させていただきました。

当会の業務は極めて広範に及び、職員の方々をはじめ、会長・副会長も、毎日、朝から晩まで課題解決に取り組まれ、委員会活動や嘱託の業務等で、当会の弁護士が日々、当会のために活動されていることに頭が下がります。

我々監事も、傍観することなく、理事者会等を通じて、

さまざま意見交換をさせていただいてきたつもりです。現在は、来年度予算編成の作業に入り、ほぼ毎日弁護士会に通っています。

さて、選挙公報にも記載した「東京弁護士会デジタル化基本計画」に基づくシステム改修と会館の大規模修繕費用の十分な積立てが、当会の重要な課題であるとの思いを強くしています。前者は、疎結合化と現状の業務改善を達成するための手順を着実に進めることが大切であり、後者は、現在進めている30年目改修の対象の洗い出し作業を踏まえて、今後の物価の先行きを見通したシミュレーションの見直しが必要になってきます。

監事意見書では、その作成段階における上記の進捗についても、見解を示していきたいと考えています。

「世界は誰かの仕事でできている。」

監事 榎木 純一 (62期)



就任から1年が経過するというところで、退任のご挨拶をさせていただく時期になりました。あっという間の1年でしたが、当会の活動を内部から見る機会をいただき、多くのことを学ばせていただきました。当たり前にあるように見える組織や仕組みが、アプリオリに「ある」のではなく、様々な方々の努力によって日々創造されていることを改めて認識し、とあるコマーシャルではないですが「世界は誰かの仕事でできている。」という言葉が寒い日の熱いコーヒーのように身に染みて、感謝が尽きない1年でした。などともう終わってしまうかのようなことを申しておりますが、監事のお仕事は5月下旬に予定されている定時総会まで続きますので、完遂するまで、健康に留意し、尽力して参る所存です。

ところで、当会は2030年に創立150年を迎えます。改築・増築を繰り返した老舗旅館が迷路のようになってしまうよう

に、当会の歴史の中で、その時々必要性から構築された規則や組織は多岐にわたり、非常に複雑化しているように感じました。役員は毎年変わるにもかかわらず、会の運営が変わらず継続していけるのは、歴代の役員が引き続き重要な会務運営を担っていることに加えて、いい意味での事務局の官僚体制があつてのことです。まさに「世界は誰かの仕事でできている。」のです。

ただし、いつかは、重複や齟齬するものを整理し、ドラスティックに再構築する作業が必要になってくるのではないのでしょうか。それによって、会務運営が効率化するなら、それはコスト削減につながり、活発な会務活動と財務改善が実現されていくのではないかと無理やり監事らしいコメントをして、本稿を終えたいと思います。1年間大変お世話になりました。